News of The Japanese Weekend School of New York

BIG APPLE

ニューヨーク補習授業校
56 Harrison St. Suite204
New Rochelle, NY 10801
Tel:(914)636-3770
Fax:(914)636-7476
平成26年　9月19日　No.11
発行責任者：校長　櫻井郁男

お国柄・・・

国際理解教育で大切なことは、他者の伝統文化や習慣を理解し尊重することとともに、自らのアィディンティティの確立と、私なりに理解しています。この視点で感じることがあります。

先日、シアトルから遊びに来た若者と食事をしました。チップを20%ほど必要とするレストランでの出来事です。数日前より急に肌寒くなり、彼は薄手の上着を着ていました。しばらくして座が盛り上がり、暑さを感じるようになりました。するとかれは上着を脱ぎフロアーに直(じか)に置いたのです。

日本では、狭い居酒屋には壁面にコートを掛けるフックがあります。そこそこの座敷ではハンガーが用意されています。高級なお店では座敷に上がる前にコートは預かってくれます。クロークがあるレストランはなかなか行くことができませんが・・・。

今回のような経験は各国でしました。

香港では路上に席を設けたおしゃれなレストランでも、チキンやカエルの骨を路上に食べ散らしたまま食事を続けます。パブではボトルを片手に楽しく語り合いますが、気づくとピーナッツの殻がフロアに散乱しています。

さて、ここからは私の勝手な考えです。

はるか昔から日本で生活していた人々は、基本的に定住(農業国)する文化なので、食事場所が移動することはない。従ってその場を清潔に保っているのだろう。遊牧をする人々は毎回の食事場所が違うし、後片付けをするとしても水は貴重である。食べかすなどは、いずれ土に還るとの考え方なのかもしれない。

このような仮説を持つと、動物(家畜)とともに生きている人々は、コートの表面(毛皮のコートを想定してください)は、もともと大地と触れている部分なので、直に床に置くことに抵抗がないのだろう。

今回の若者と同様な振る舞いから、スウェーデンに旅行したとき、ファミリーレストランのようなお店で、ジャンバーを床に無造作に置いていた光景を思い出しました。

私はこれらの出来事に違和感を訴えているのではありません。「ふうん、きっとこのように考えているのかな」と世界各地で見聞きすることに新鮮さを感じ紹介しているのです。

もちろん私の驚きをきちんと伝え、彼の考えを聞くことができれば、本当の異文化理解ができるのでしょう。しかし私は旅行会話程度しか英語の力はありません。感想を述べ、考えを知る・・・これができるのは本校の子供たちです。今、子供たちの世界は狭く、自らが獲得するであろう素晴らしい能力に考えが及びません。したがって、たくさんの宿題にいろいろなストレスを感じていることでしょう。でも、本校の子供たちは、いずれ真の国際人として、広い世界で、さらに広い視野と深い洞察力を持ち、国際社会に貢献してくれることでしょう。



「若者」掲載了解済

W校の皆様へ

先日図書を借りた後のフロアでの座り込みについて、対応策を紹介いたしましたが、各方面から考えは理解できるが、現実にはスペースがない等のご意見をいただきました。したがって、第1カフェテリアにスペースを設けるとの提案は撤回いたします。お騒がせし、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

皆様からアイデイアも参考に、運動会後に改めて提案をさせていただきます。

W 校　運動会当日の駐車場について

運動会当日の第 1･第 2 駐車場の進入方法等について、
保護者会よりお知らせしております。どうぞご協力下さい。

障害のある方専用の駐車場は、許可証のない方は、いかなる場合にも使用しないで下さい。

第 2 駐車場のコンディションが悪い(ぬかるんでいる等)場合、
前日の夜に状況を判断し、
緊急措置が必要な場合にはホームページでお知らせいたします。